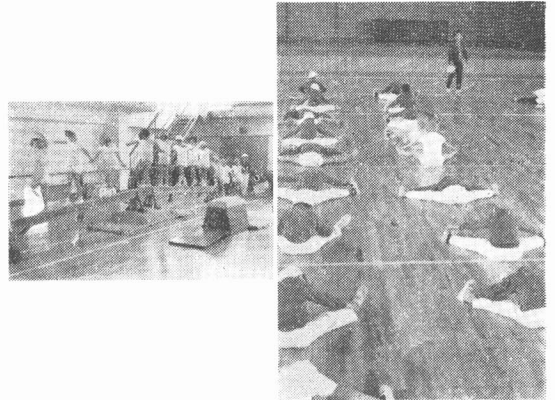


ウ、本時のねらい(略)
エ、程度別集団編成基準

- 緑組—不活発……とび箱の上にあがることのできる。
- 赤組—普通……両足でふみ切り、両手をつき、足うらを台上につけてあがることのできる。
- 黄組—活発……両足でふみ切り、両手を前方につき、足うらを全部台上につけてあがることのできる。



各種組合せせ運動の一部

オ、準備

とび箱9台、マット10枚、ポール11脚、ゴムひも2本、平均台4台、円形ゴムマット10枚、タンブリン、黒板(移動式)

④ 教授過程

| 学習活動内容 | 時間分 | 協力 | | 指導上の留意点 | 反応・評価 |
|---|---------|--|---|---|--|
| | | T A | T B | | |
| 1. 学習のめあてについて話し合う。 (1) 体操について -用具と場所の安全な配慮 -スタートの位置の確認 (2) 腕立てとびあがり とびおりについて | 5 | -健康観察をする。 -服装を点検する。 -学習への構え意欲の度合いをみる。 -説明か所をまわりながら明かす。 -理解度をたしかめる。 | 1. 本時の学習について知らせる。 -体操 歩、走、跳の運動 いろいろな運動の順序や、やり方がはつきりしましたか、わからないところがありませんか。 [順を追って会場をみせながら] すぐにやれますか、ちょっとふあんだと思うところはありますか(念をおして) -腕立てとびあがり とびおり | -見学者がある場合は 指示を与え、学習に参加するようにさせる。 -10か所の用具に対処させながら、運動方法を、要点を説明する。 -くわしくは、とび箱運動にはいる前にはなすことにする。概要のみ説明する。 | +反応 ↓ 64/66 -反応 21/66 |
| 2. 体操をする (1) 竹のびの運動 (2) 各種組み合わせ運動 ア. 山道平均台 イ. たねの腹づつみ ウ. マットまたごし エ. 台上とびあがり(ステージを利用) オ. とびおり(ソファの上に) カ. うさぎさん キ. ケンケンパー ク. 尻とり虫 ケ. 大男の行進 コ. たいらな平均台 | 10 | -個別指導をする。 特に(エ)(オ)の安全確認指導。 -エ(イ)の運動について観察する。(とび箱運動への能力の概要をみる) | 2. 体操をさせる。 (1) 屈膝、背のび、(呼吸を入れて) (2) 腕力とび。 (ア)(イ)(ウ)、(キ)(ク)(ケ) 特に(ア)の安全を確認する。 どの運動も みなでできましたか。よくできなかったと思う人は手をあげてください。 | -連の運動の中で、主運動(とび箱)への準備体操をわらうようにする。 (ア)準備性 (イ)柔軟性 (ウ)筋力、敏捷性 (エ)腕力 (オ)腕力 (カ)腕力 (ク)巧み性 (ケ)平衡性 (コ)平衡性 調整力 柔軟性 筋力 腕力 腕力 腕力 腕力 腕力 腕力 腕力 | 途中で失敗 男1.女3. 不活発なもの 17/66 活発なもの 47/66 心理的抵抗は なくなった。 反応 9/66 到達度 66/66 100% |
| 3. とび箱運動について示範運動をみる。 | 5 | 3. とび箱運動について指示(示範)する -助走の位置 -手のつき方 4. 反復練習をさせる。(グループ分け) 身長順、男女別の班でとばせ、活動力と技能水準により分ける。 (緑、赤、黄) | -用具の点検をする。 -個別指導をする。 -緑組の練習について助言する。 -ふみ切り板に目じるしのテープをはる。 -台上に手の位置の目じるしとなるテープをはる。 | -用具の安全点検を常にする。 -前記活動力と技能水準により、緑、赤、黄、の3集団に分ける。 -児童に目立てをはっきり示し、各自評価しながら反復練習をさせるようにする。 -赤、黄、は反復練習、緑集団を主に指導助言する。 -話し合いをとりあげ、ふみ切り板に目じるしをつける。 -3集団に分けたもので、なお練習をつづける。 | +反応 36/66 |
| 4. 腕立てとびあがり とびおりをする -クマでらいの助走 -両足ふみ切りを強くして腕立てとびあがり とびおり。 5. 練習をしたことについて話し合う。 -ふみ切り板の上の足の位置。 -手の位置 6. よくとべるものの運動をみて、よい点をとり入れ練習をする。 7. 集合、反省する。 8. 整理運動をする。 9. 次時の予告をさく。 | 5 10 | 5. 話し合いをさせる。 -ふみ切りの足 -手のつき方 どんなとび方がじょうずなとび方でしょうか、なにかさつたことがある人は手をあげてください。 6. 3-4人えらんでとばせ。 7. 各自に目立てをもちまて試行させる。 8. 学習目標について反省させる。 9. 整理運動をさせる。 10. 次時の目標を指示する。 -用具のかたづけについて指導をする。 | -理解度をたしかめる。 -反応をたしかめる。 -友だちの運動をみながら気づかせ、話し合いに引き出すようにする。 -腹筋をじょうぶな分ばす運動を配慮する。(体の前後屈) | +反応 66/66 興味 28/66 とび箱到達度 (赤グループ) 42% | |

⑤ 小集団編成の視点

第2次において、第1段階で体操(ウ)、(オ)の運動の観察により不活発グループをだし、第2段階で自由なとびあがり とびおりの観察で活発なグループをだし、3グループの集団とした。第3段階においては、活動力、運動の観点により集団移行を全授業過程で検討したが、3名の移行であった。このことは体操種目の取り上げ方と、スペースの活用が効果的であったことにもよるが、学年相応のある編成のあり方と思われる。

⑥ 教師の協力・分担

主となる役割、協力的な役割をきめ、協力教師は、主として児童理解のための反応評価と個別援助を分担する。おのおのが授業過程において、主

体性が要求され、組織活動に充足感をもてたことは、効率的であったと思われる。また諸準備、安全管理面からもひとりの教師による指導ではできない充実さがみられた。

⑦ 授業過程の深まり

遊戯化を加味した一連の体操の中に、とび箱運動にたいする心理的抵抗をとりのぞくための運動として、特に2か所を考慮した。ステージへのとびあがり とびおりがそれである。ためらうまもなくあとから続く流れの中で、自分の能力以上のものがでてくる。このような過程からとび箱運動にとりくませたことが、意外な好結果をもたらしたようである。その深まりは反応・評価らんのようである。